

しても明かである。もつとも祆教の信者が主として中國に來住した西域人であつて、中國人は少なかつたであろうことは、右の薩甫（唐代には薩寶といつた）の職に在つた者が殆んど胡人に限られている事實や、中央アジア探検の結果、諸宗教の漢譯經典が相次いで發見されたにも拘らず、祆教關係のものは現在までのところ全く發見されていない事實などからも大體推測できる。

祆教の信徒は神聖な火の祭壇に參拜し、本國におけるとほほ同様の儀禮を行つていたらしく、薩寶は祭祀の長であるとともに裁判を司どつたようである。ゾロアスター教では本來偶像崇拜の風は全くなかつたが、中國に入つてからは祠堂の形式も幾らか變化すれば、偶像崇拜も行われたらしい。敦煌出土の唐代の地志の殘卷には、沙州（敦煌）・伊州（新疆省哈密）などの祆祠に祆神の塑像や畫像があつたことを誌したものがあつた。長安の市中には數箇所祆祠が建てられたし、洛陽・涼州・敦煌・伊州などにもその祠堂が存在した。祆教の祭儀には様々の見世物とともに幻戲・奇術の如きものが行われたが、これが隋唐時代におけるいわゆる雜伎の流行に少なからぬ影響を與えたであろうことは想像に難くない。

かくて隋唐時代に西域人の中國來住とともに行われた祆教も、九世紀の半ばに、いわゆる會昌（えししよう）の廢佛の際に、その餘波を受けて彈壓され、それ以後大いに勢力を失つたが、宋代に入つても當時の文獻にはなお、その都の汴京（開封）や鎮江などに祆祠があつて一部の人々の信仰を集めていた模様を傳えたものがある。

第二の摩尼教は三世紀の初めにバビロンの人マニ（Mani）がゾロアスター教を本としてこれにキリスト教・佛教・バビロンの古代宗教・グノステイック（ギリシア哲學の一派）などの教義を加味し、合成した一種の折衷宗教